

# 「ProWine Tokyo 2024」初開催

## 世界22カ国から充実の出展内容



エヴァ・ブロックマン氏

種にはカベル  
なPIWI品  
大してきた。主  
で約3%まで拡  
展している。ド  
イツのブドウ畑  
ことから導入が  
進んでいる。カ  
ビ対策の農業  
散布を年間8割  
ほど削減できる  
ことから導入が  
進んでいる。ド  
イツのブドウ畑  
で約3%まで拡  
大してきた。主  
なPIWI品  
種にはカベル

日本最大規模のワイン・アルコール飲料専門展「ProWine Tokyo 2024」が4月10〜12日、東京ビッグサイトで開催された(主催リメッセ・デュッセルドルフ・ジャパン)。「FABE X 東京 2024」など合同開催の8展合計(3日間)で5万5214名が来場した。

世界22カ国から約180社が出展。ビジネスフランスが26社、ドイツ連邦食料・農業省が25社、ポルトガルはヴィーニョ・ヴェルデが18社、スペインはルエダが10社、フミージャが12社、カタルーニャが9社など多様な顔ぶれとなった。フォーラム会場では11の講演、マスタークラスは13講義が実施された。

「ProWine Tokyo 2025」は25年4月15〜17日に開催予定。

**〈ドイツ、PIWI品種を推進〉**  
ドイツワインのミニセミア「サステナブル、オーガニック、低アルコール」では、主なサステナの取り組みを紹介。「気候変動の影響で天候が変わりやすく、極端な気温上昇や降雨などが起きやすくなっている。そうしたなか、新たなアプローチを推進」

プロローチが求められている。葉であえて影を作っている。葉の日差しから実を守る、カバークロップにより水分量を維持するなどのほか、より正確なデータ分析を駆使した将来のブドウ栽培・ワイン製造に向けた革新が進んでいる。

特に注目してほしいのは、カビに耐性のあるPIWI(ビーヴィー)品種だ。カビ対策の農業散布を年間8割ほど削減できることから導入が進んでいる。ドイツのブドウ畑で約3%まで拡大してきた。主なPIWI品種にはカベル



KWV ジャスティン・コランズ氏

だ。  
ダー的存在とし  
て主導する立場  
性、環境安定  
条件、労働  
かつ公正な労働  
の投資、倫理的  
業および社会へ  
として。企業  
として重要な事  
契約することを最  
力しており、サ  
くてもワインらし  
の味わい。

ネ・ブランやレгентがある(第75代ドイツワインクイーンのエヴァ・ブロックマン氏)。

試飲では、未輸入のノンアルのスパークリングワインやローアルの赤も披露。

「EINSLWEI ZERORIELING (Weingut Leitz)」は、アルコール分が無くてもワインらしい充実感のある味わい。

**〈南ア「KWV」もサステナの取り組み披露〉**  
南アフリカ「KWV」のセミナーでは、チーフワインメーカーのジャスティン・コランズ氏が登壇した。南アフリカのワイン造りは自然との共生で成り立つことから、サステナビリティは非常に重要なトピックと言及。「KWVは環境面・財政面での持続可能性に尽力しており、サステナに則った良質なブドウ農家と契約することを最



ゲザヴィエ・ヴィニヨン



シャトー・デスクラン



ドメーヌ・デ・ペイル



ナイティンバー

多くの来場者に好評  
PARAZZI」は  
イナリーで、生物多  
様性を優先したワイ  
ン造り。ロゼ「PA  
性記者が設立したワ  
イユ・ヴィーニユ」  
は樹齢125年の古  
木で造った収量の少  
ない逸品。ドメー  
ヌ・デ・ペイルは女  
性記者が設立したワ  
イナリーで、生物多  
様性を優先したワイ  
ン造り。ロゼ「PA  
多くの来場者に好評

サステナに取り組みことで、微生物の数が増えてブドウの品質が向上する。生物も増えて幸せな気分になれる。そしてワインの品質も良くなる。ブドウ樹も長生きする。

南アでワイン造りを行うメリットとして、①高度があるのを酸を保てる ②山がちで多様なミネラルを含む

**〈各ブリースとも充実の内容〉**  
フランスブリースでは未輸入品を多数紹介。シャトーヌフ・デュ・パプの「ゲザヴィエ・ヴィニヨン」は著名な醸造家ゲザヴィエ・ヴィニヨンのワイナリー。「ALMUTIA」はグルナッシュやシラーなど黒ブドウを使った白ワイン。「シャトーヌフ・デュ・パプ ヴィーニユ」は樹齢125年の古木で造った収量の少ない逸品。ドメーヌ・デ・ペイルは女性記者が設立したワイナリーで、生物多様性を優先したワイン造り。ロゼ「PARAZZI」は

む古い地質がある ③涼しい海風があること——を挙げた。そして「自然の多様性を反映した、様々なスタイルのワイン造りが可能だ」などと魅力を語った。



ブルカリ(モルドバ)

だった。モルドバからは同国最古で1827年設立の代表的なワインナリー、シャトーブルカリ。「デキャンター・ワールド・ワイン・アワード2023」では中央・東ヨーロッパ地域で最も受賞数の多いワ

イナリーとして表彰された。売れ筋は、モルドバ土着の白品種ヴィオリカ100%の「NOCTURNE VIORETTA DE PURCARI」や「ヴィオリカ」(後者の輸入「ユウ・コーポレーション」)。英国からはスパークリングワイン「ナイティンバー」(輸入「TYクリエイショ

ン)。イングランド南部に位置し、シャンパーニュ地方から海峡底を通じたテロワールは石灰質土壌。シャルドネ、ピノ・ノワール、ピノ・ムニエの3品種に限定し、瓶内二次発酵にこだわる。「クラシック・キュヴェ・マルチヴィンテージ」などを紹介。MHD モエヘネシー



中村紀子氏(右)

ディアジオは、ロゼワインの品質を引き上げた革新的

このほか、パトリック・

なワインナリーとして著名なシャトー・デスクランをPR。新商品「ガリュスコートドプロヴァンス」(4月発売)はハイエンドロゼワイ

シムミットMW(ドリンク・ビジネス誌編集長)による「Champagne Personality of the Year Award」授賞式を実施。中村紀子氏(WSETキャプランワインアカデミー講師)が受賞の栄誉にあずかった。

# ドイツワイン、P-I-W-I品種の認知拡大へ

ドイツは今、日本へのワイン輸出を強化している。従来から人気のリースリングだけでなく、将来的に需要が高まる可能性のあるP-I-W-I品種や、新たなスタイルのピノ・ノワールを訴求していく構えだ。昨年9月に第75代ドイツワインクイーンに選ばれたエヴァ・ブロックマン氏にトレンドについて話を聞いた。

——ドイツワインのトレンドについて

リースリングやピノ・ノワールが非常に重要な品種

であることには変わりはない。近年はピノ・グリやピノ・ブランでも注目に値するワインが造られるようになってきた。

そしてP-I-W-I

(ピーヴィー)品

種が今、とても

関心を集めている

あり、年間のカビ

対策を約8割も削減できる品種だ。徐々にクロソンの開発が進み始めて

エヴァ氏(左)、マヌエラ氏(右)



いる。

例えばP-I-W-I品種の一つである黒ブドウのレゲントは何10年にわたり研究されてきた。ほかにもカベルネ・ブラン(白)、ソラリス(白)、ムスカリス(白)などがある。ブレンドで使うだけでなく、バラエタルワインとして表記するワインナリーも増えている。

品種のラインアップも揃ってきたので、積極的にプロモーションを行って

いきたい。

——ドイツ国内でP-I-W-I

品種の認知度は

従来品種と味わいに違いもあり、当初は認知拡大や関心を持ってもらうことに苦労した。だが、品質向上に加え、環境への配慮や将

——P-I-W-I品種の研究開発や導入はドイツが進んでいる?

ドイツで開発された品種もあり、先駆的な立場だ。3月に開催されたPro Wine inでもその将来性や特徴をアピールした。一般的な品種に比べて環境に対する負荷を大きく軽減できる。「Weinbauder Zukunft」(未来のブドウ栽培)という生産者グループが主導し、P-I-W-I品種を使ったワイン造りなど情報を発信している。

——ドイツ国内でP-I-W-I

品種の認知度は

従来品種と味わいに違いもあり、当初は認知拡大や関心を持ってもらうことに苦労した。だが、品質向上に加え、環境への配慮や将

——入口にオススメなの

は

リースリング・カピネッ

トは初心者にも親しみやすい。特に初めてドイツワインを飲む人に勧めたい。軽めで少し甘さがあり、飲みやすいだろう。

——現在は日本でどのドイツワインが人気か

白が多いが、赤の需要も伸びている。ブルゴーニュが品薄で高騰する中、シュペイト・ブルグダーは他国のピノ・ノワールと比べて競争力がある。

ブルゴーニュやニュー

ヨークなどで学んだ新しい

世代のワインメーカーが台

頭し、これまでに無かった

アイデアでワイン造りに取り組んでいる。テロワールに適したブドウ造りにより、この30年で革命が起きている。以前は淡い色合いでフルーティな味わいのスタイルが多かったが、今で

## 【エヴァ・ブロックマン氏プロフィール】

1999年1月27日生まれ、アシャッフエンブルク市在住。ワイン生産者、ガイゼンハイム大学ブドウ栽培・ワイン醸造学学士号取得。ドイツ・ワインインスティテュート(DWI)代表として国内外で約200のイベントに参加。

資料提供:マヌエラ・リール・ベン氏(ドイツ・ワインインスティテュートマーケティング・マネージャー)